

道徳科学習指導案（3年2組）

令和3年5月21日（金曜日）10：40～11：30 3の2教室

- 1 主題名 責任ある行動を〔A（1）自主、自律、自由と責任〕
- 2 教材名 スイッチ（出典：新訂 新しい道徳3 東京書籍）
- 3 ねらい 卓球部のキャプテンとしてチーム運営に悩む主人公の姿を通して、自主的な判断の下に誠実に実行し、責任をもって行動しようとする実践意欲を高める。

4 主題設定の理由

(1) 教材観

本主題では、自ら考え行動することの大切さに気付いた主人公の姿を通して、自主的に考え、判断し、行動することの大切さやその意義の理解を深めることができる。また、立場が異なる人の意見や助言により、変化していく主人公の心情を自分との関わりで捉えることを通して、多面的・多角的に考え、道徳的に考え、自ら責任を持った行動をしようとする実践意欲を高めることができる。

(2) 生徒観（男子17名、女子17名 計34名）

中学第3学年のこの時期は、最高学年になり部活動や委員会、進路で迷いや葛藤を感じる場面が多くなってきた。本学級においても、生活記録の記述から、最高学年としての役割を果たしたいが本当にできているのか、どうやったらよいのかと悩んでいる生徒も少なくない。これまでの部活動や委員会活動を通して、自ら考えて行動し、その行動に責任をもつこと大切さについては多くの生徒が理解しているが、その意義まで理解して実際に責任をもった行動ができる生徒は少ない。

そこで、本時の道徳科の授業では、自主的に考え、判断し、行動することの大切さやその意義を理解し、自らの行動に責任にもとうとする実践意欲を高めたいと考える。

(3) 指導観

- ・導入では、登場人物やあらすじを確認しながら生徒自身が登場人物に自分を投影して考えることができるようにすることで、イメージ豊かに教材の中に入り込めるようにし、本時の課題に関わる問題意識をもたせることができるようにする。
- ・展開では、これまでの生活経験を想起させたり、登場人物に自分自身を重ね合わせて考えさせたりすることで、責任ある行動について自分との関わりで捉えることができるようにする。
- ・終末では、課題や自らを振り返らせることで、自主的な判断のもとに実行し、自らの行動に責任をもとうとすることについて広い視野で見つめ、人間としての生き方についての考えを深めることができるようにする。

5 本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
1 本時の課題をつかむ。 ○読み物教材「スイッチ」について問題意識をつかむ。	○日頃の学校生活を想起させることで、責任についての考えを深めていくことを捉えさせる。
課題：責任をもって行動するとは、どのようなことだろうか？	
○課題に対する自分の考えを書く。 〔・部活動でみんなをまとめること ・仕事を全うすること ○読み物教材「スイッチ」の状況と範読を聞く。	○授業開始時における自らの考えをロイロノートのカードに記入させ、提出させることで、クラスで他者の考えを共有し、多面的・多角的な考えをもてるようにする。

【状況】

- ・卓球の強豪校に進学した主人公の絵里。しかし、顧問の先生が入院してしまう。そのような状況下で、絵里は新チームのキャプテンを任せられ、練習メニューについて悩む。
 - ・主人公（絵里）の責任感と葛藤に注目すること。
- 感想を交流する。

2 教材「スイッチ」を通して「責任ある行動」について考える。

1年生から不満が出始めたとき、絵里はどのようなことを考えたのだろう。

- ・坂ノートの通りに練習しているのだから、大丈夫だという自信。
- ・先生に戻ってきてほしいという不安。

田原先生の「君たちは試されているんだぞ」という言葉は、何を試されているのだろう。

- ・自分たちだけでできるかどうか。
 - ・チームを目標に導くこと。
 - ・自分で判断する力。
- 自分が主人公の立場のとき、同じ気持ちで行動できるか考える。
- 〈できる〉の理由
- ・キャプテンとしての役割だから。
 - ・顧問に頼りすぎではいけないから。
 - ・自分の成長につながるから。
- 〈できない〉の理由
- ・そこまでやる必要ないから。
 - ・不満を言われたら心が折れるから。
 - ・先生の存在が大きかったから。

自ら考えて物事に取り組むことで、どのようなことが得られるだろう。

- ・自分の力でやりきったという達成感。
- ・自分に自信がつく。
- ・たとえ失敗したとしても充実感がある。

3 課題を振り返り、これからの自分について考える。

- 課題やこれまでの自分を振り返り、これからの自分についてワークシートに書く。
- 振り返りを発表し、全体で共有をする。

〔多面的・多角的なものの見方〕

- ・責任をもった行動をすると、周りの人の不安を取り除いたり、期待に応えたりすることにもつながっていると思う。

〔道徳的価値の深い理解〕

- ・自分で判断した行動には責任が生まれるが、責任をもった行動をすることは、自分に自信がついたり、周りからの信頼を得られたりするなど、得られるものが多いということが分かった。

- 場面絵を提示しながら、状況を確認することで、教材の立場を捉えさせる。

- 範読を聞く際に、本時の課題である責任感という視点を与え、主人公の心情の変化に焦点化することで、生徒に課題について意識させ、主人公の気持ちに共感できるようにする。

- 感想を交流させることで、生徒が関心をもっていることについて柱立てができるようにする。

- 1年生から不満が出始めたときの主人公の気持ちを捉えさせることで、顧問の指導から脱却できない主人公の気持ちに共感できるようにする。

- 主人公の置かれている立場について補助発問することで、主人公が坂ノートや伝統を理由にして、浅はかな行動をしていることに気付かせる。

●補助発問：何が問題なのだろう。

●補助発問：どうすればいいのだろう。

- 田原先生の言葉の真意を議論させることで、自ら考えて物事に取り組むことの意義に気付かせる。

- 議論では、「できる」「できない」の二項対立で話し合い、議論のなかで「やる必要があるかないか」という価値について考えさせることで、道徳的価値に迫れるようにする。

- 「できる」「できない」の割合を数値にし、ロイロノートのカード機能で提出させ、その理由を共有することで、他者の意見から多面的・多角的に考えたり、根拠となる道徳的価値について議論したりすることができるようにする。

- 議論を行ったあと、もう一度数値で表させることで、議論を通した変容がみられるようにする。

- 自ら考えて行動して、得られることを考えさせることで、日常生活に生かせるよう一般化する。

- 課題について、授業で考えたことを自分の意見を交えて振り返らせることで、これからの生活において自らの行動に責任をもとうとする意欲を高める。

【評価の視点】

責任ある行動について、自分関わりで捉え、今後の生活に生かそうとしているか。(発言・ワークシート)

〈「学びの質」を高めるための具体的な手立て〉

- ・対話を深めるための指導の工夫